

# 住民間ネットワークが地域の安全安心に 与える影響の分析

東 真央<sup>1</sup>・松永 千晶<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 非会員 福岡女子大学 国際文理学部環境科学科 (〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1)

<sup>2</sup> 正会員 福岡女子大学 国際文理学部環境科学科 (〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1)

E-mail: matsunaga@fwu.ac.jp (Corresponding Author)

今後のまちづくりにおいて地域の安全安心が重要視される中、少子高齢化や都市部への人口集中などにより、地域コミュニティの希薄化への危機感がより一層高まっている。本研究は、安全安心まちづくりの検討に必要な知見を得ることを目的に、住民間ネットワークが地域の安全安心に与える影響を定量的に把握することを試みるものである。福岡市内の小学校区を対象として、日常生活における不安感や地域周辺環境に対する不安感、個人の地域とのつながり等の住民へのアンケート調査を行い、個人によって感じ方の異なる不安感や地域とのつながりを把握する。その上で、住民間ネットワークの定量化を行い、住民の不安感との関係性について明らかにする。

*Key Words: Safety and Security, local network, connection of local community*

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景

我が国では、交通安全や防犯などを対象とした安全・安心なまちづくりのための取り組みがそれぞれ多くの地域で行われている。少子高齢化や都市部への人口集中など、目まぐるしく変わっていく社会情勢の中でいかに人々が安心して暮らせるまちをつくっていくかが今後のまちづくりにおいて重要なカギを握っている。しかし、日本ではこのまちづくりに必要不可欠である地域コミュニティの希薄化への危機感がより一層高まっている<sup>注1</sup>。

このような地域コミュニティにおける人と触れ合う機会や人間関係の希薄化、コミュニティを巡る様々な潜在的な問題の発生等の問題を受け、2005年に内閣府が実施したアンケート調査の結果、ソーシャルキャピタルを形成する要因である個人の信頼・ネットワーク・社会活動等は生活上の安心感を醸成する可能性が指摘されている。また、同じく自分の住むコミュニティへの高い評価も生活上の安心感を高める可能性があるという結果が得られた<sup>注2</sup>。この調査の中で、個人レベルのソーシャルキャピタルを形成する要因とされている

「個人の信頼・ネットワーク・社会活動等」は「人とのつながり」と捉えることができる。さらに、自分の住むコミュニティへの高い評価も生活上の安心感を高める可能性があるという結果から、個人と地域のつながりや住民間のネットワークを強めることは地域の安全安心につながると考えられる。以上より、安全安心まちづくりの方策の検討には、個人と地域のつながりや住民間ネットワークの関係及びこれらを強める要因の把握が必要である。

### (2) 既往研究および本研究の目的

地域のつながりや住民間ネットワーク、地域の安全安心に関する研究は既に行われている。例えば、小林ら<sup>1)</sup>は地域住民による非行防止活動が少年非行の発生に及ぼす効果について研究している。非行防止活動は、スポーツ活動、自然体験活動や社会奉仕活動などに青少年やその保護者などが参加することによって、道徳心、忍耐力、規範意識等を育むための活動と、街頭補導活動やパトロールなどによって青少年が非行を行う機会を除去する活動に大別されている。これらの中核的な住民ボランティアの積極的な活動が、地域住民全般の

青少年に対する働きかけを高めることを通して実際に少年非行の発生を抑制しうることを示唆する結果が得られている。また、石川ら<sup>2)</sup>は農村地域在住の一般高年者の親しい親戚や友人数、近隣とのつながりの程度を地域別に分析し、それらが高年者の生活満足度に与える影響について研究した。その結果、親しくしている親戚数および近所の人数、近所の人以外で親しくしている知人・友人数は地域に関係なく高年者の生活満足度に有意な影響を及ぼしていることがわかった。このことから、親戚や友人近隣とのネットワークの拡充の重要性が示唆された。さらに、岡村ら<sup>3)</sup>は個人の地域社会とのつながりに着目して、生活道路における交通安全と防犯の安心・不安に対する意識構造分析を行っている。この研究から、地域内で住民間の交流機会を設けることは、みまもり活動やパトロール活動への参加促進につながり、さらに地域の行政や地域住民への信頼感の向上にもつながることが示唆された。このように、地域のつながりや住民間ネットワーク、地域の安全安心について、個別の研究は行われているが、岡村らのようにそれらの関係性を定量化している研究は少なく、議論の余地があると言える。

そこで、本研究は安全安心まちづくりの検討に必要な知見を得ることを目的とし、暮らしの「安心」に着目し、安全安心まちづくり実施単位のひとつである小学校区を対象に住民間のネットワークが地域の安全安心な暮らしに与える影響について定量的に明らかにすることを試みるものである。具体的には、地域住民を対象に地域での日常生活における不安感および個人と地域とのつながりの実態・意識に関するアンケート調査を行う。その結果に基づいて住民間ネットワークを定量化した上で、地域生活における不安感との関係について分析する。

## 2. 調査概要

### (1) 調査対象

本研究の調査は、福岡県福岡市西区にあるひとつの校区を対象とする。校区周辺の地図を図-1に示す。この小学校区は、埋め立てや人口増加等により新たに小学校が開校されたことから、近隣2校区の区域の一部が分離・合併してできた新しい校区である<sup>注3)</sup>。この地域の住宅建て方別世帯数の割合は福岡市全体の割合と大差なく、また、大規模な商業施設を有している福岡市の中でも平均

的な校区である。しかし、図-2に示す通り2010年から世帯数が上昇しており、特に15歳から64歳の人口上昇がみられている。年代別人口割合を見ても、福岡市における15歳から64歳の割合は64.9%、西区は61.9%であるのに対してこの校区は68.2%とどちらも上回っていることがわかる。また、人口が増加している地区であるため、居住期間に応じて不安感やつながりに対する意識や感じ方が異なる可能性があることが、この校区を対象とした理由である。

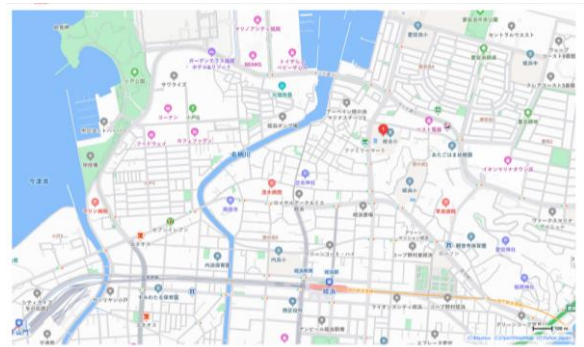


図-1 対象校区周辺地図

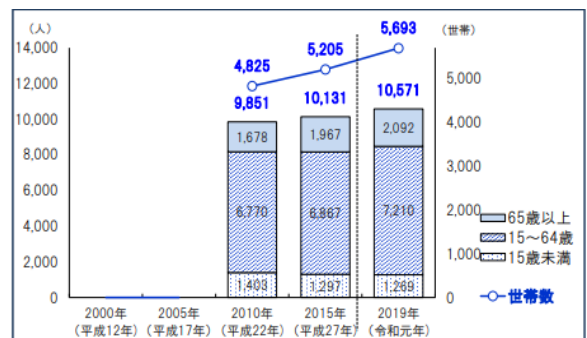


図-2 対象校区の人口・世帯数の推移

### (2) 調査内容

今回は、対象小学校区の児童の保護者約500名へ向けたアンケート調査を行った。質問項目は、年齢や性別、当該地域での居住年数などの個人属性に続き、居住地域内で身の危険を感じた経験の有無、その地域に対する安心感、日常生活の中で感じる不安感、居住地域周辺の環境、地域団体や地域活動に対する認識、個人と地域とのつながりについてそれぞれコロナ前後で比較したものからなり、回答方式はリッカート尺度法による5段階評価とした。

### 3. 結論

本研究は、少子高齢化や都市部への人口集中に伴う地域コミュニティの希薄化に対する危機感がより一層高まっている背景を受け、安全安心まちづくりの検討に必要な知見を得ることを目的に、福岡市西区の小学校区を対象にアンケート調査を行い、個人と地域のつながりおよび住民間ネットワークと地域の安全安心の関係について分析するものである。現在調査を行っている段階であるため、結果および考察については当日会場で発表する。

**謝辞**：本研究は科学研究費補助金（基盤研究(C)，課題番号：22K04355）の交付を受け実施されました。また、小学校関係者の皆様から多大なご協力を賜りました。末筆ながらここに示し、謝意を表します。

#### NOTES

- 注1) 内閣府経済総合研究所：コミュニティ機能再生とソーシャルキャピタルに関する研究調査報告書，No.15，pp12-93，2005.
- 注2) 総務省：地域コミュニティに関する研究会報告書，p.1，2022
- 注3) 福岡市校区データ（ホームページ）：  
[https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/52538/1/r01\\_n1\\_meinohama\\_book.pdf?20211125095217](https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/52538/1/r01_n1_meinohama_book.pdf?20211125095217)，  
 2022年09月26日閲覧。

#### REFERENCES

- 1) 小林寿一：地域の非行防止活動の活性化について—地域レベルのプロセスと効果の検討—，科学警察研究所，第27巻，pp.74-86，2002.  
 [KOBAYASHI, J.: The empowerment of community activities for preventing delinquency: A neighborhood-level analysis of process and effect., *National Research Institute of Police Science*, No.27, pp.74-86, 2002.]
- 2) 石川久展，冷水豊，山口麻衣：高年者のソーシャルネットワークの特徴と生活満足度との関連に関する研究—4つの地域特性別分の試み—，日本福祉学研究，第2巻第1号，pp.49-60，2009. [Ishikawa, H, Shimizu, Y and Yamaguchi, M.: An impact of social networks on life satisfaction among young-old people in Japan ; Analysis of social networks in terms of area characteristics, *Japanese Journal of Human Welfare Studies*, Vol 2, No.1, pp.49-60, 2009.]
- 3) 岡村篤，橋本成仁：生活道路における交通安全と防犯の「安心・不安」に対する意識構造分析—街

路空間の構成要素と個人の地域社会とのつながりに着目して—，都市計画論文集，Vol.50，No.3，pp.703-708，2015. [OKAMURA, A and HASHIMOTO, S.: Structural Analysis for the Security and Fear about Road Safety and Crime Prevention in Residential Area : About Street Components and Local Community, *Journal of the City Planning Institute of Japan*, Vol.50 No.3, pp.703-708, 2015.]

(Received ???, 2022)

(Accepted ???, 2022)